



彩の技術士

公益社団法人 日本技術士会 埼玉県支部

The Institution of Professional Engineers, Japan

こうほう・Vol.16.2020.11.1.

〒333-0844 川口市上青木3-12-18 SKIP シティ A1-706B
埼玉県支部事務局 Tel.:048-263-0840, Fax.:048-263-0841
<http://www.engineer.or.jp/shibu/saitama/index.html>

目次

巻頭言	埼玉県産業労働部 部長 加藤和男	加藤和男
支部長挨拶	日本技術士会埼玉県支部長	増古恒夫
委員会活動紹介		
総務企画委員会	委員長 村山 肇	
CPD委員会	委員長 白岩信裕	
科学技術振興委員会	委員長 黒澤兵夫	
地域産業支援委員会	委員長 近藤 孝	
地域活性化委員会	委員長 穴戸富雄	
技術士試験合格者紹介	長舟利雄	宮崎優一
2020年度年次大会・合格者歓迎会報告	CPD 委員長 白岩信裕	
寄稿「テレワークの今、そしてこれから」	Office Morino	須郷 均

巻頭言

埼玉県産業労働部 部長 加藤和男

公益社団法人日本技術士会埼玉県支部並びに
会員の皆様には日頃から本県の産業労働行政に
格別の御理解・御協力をいただいておりますこと
に、深く感謝申し上げます。

さて、昨今の新型コロナウイルス感染症は経
済・社会に大きな影響を及ぼしております。

日々御尽力いただいている医療従事者を始め
とする多くの皆様には深い敬意を示すとともに
感謝を申し上げたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症と共存しながら経
済・社会を発展させていくためには、デジタル技
術を活用した非接触で感染リスクの少ない企業
活動や感染拡大防止に向けた新製品・新技術の開
発が切望され、多くの企業において喫緊の課題と
して取り組んでいただいております。

こうした取組が研究段階、試作開発段階、生産
段階を経て我々のもとに届くためには、各段階
において技術的な高い識見を導入する必要があ
り、私はこの点について技術士会、そして会員各
位の御尽力に大いに期待をしているところで
す。

残念ながら、今しばらくは新型コロナウイルス
と共存せざるを得ない状況が続くと思われま
す。県といたしましても感染拡大防止と社会経

済活動の両立を図るた
め、「彩の国『新しい
生活様式』安心宣言」
や、「強い経済の構築
に向けた埼玉県戦略会
議」によるデジタル化
の推進など新たな取組
も進めています。

こうした様々な取組を通じて、たゆまぬ努
力を重ね、この危機を乗り越えようと頑張っ
ている県内企業の皆様に全力で支援してまい
ります。

貴会は、県産業技術総合センター(SAITEC)
とも連携し、日々、複雑かつ多様化する技術に
専門的な立場から御協力をいただいております。

また、昨年の台風19号の被災企業に対する
埼玉県中小企業災害復旧支援補助金に関しま
しても、審査に御協力をいただき、本県中小企
業の災害復旧に大きく貢献していただいております。

確かな技術が企業の成長を支えます。今後と
も県内企業の発展に向け、貴会並びに会員の皆
様の絶大なる御協力をお願いいたします。



(加藤和男部長)

☞ 支部長挨拶

日本技術士会 埼玉県支部長 増古恒夫

皆様ご存知の通り新型コロナウイルス感染症は生命・生活への脅威、経済への打撃等、世界的に多大な被害が発生し影響し続けています。皆さまの関係する方で被害に遇われた方にはお見舞い申し上げます。

去る8月29日、例年より約1か月遅れで埼玉県支部年次大会を執り行いました。これも新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。当支部では新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が発令される以前よりメールやWebを活用した会議や各活動を推進してまいりました。しかし4月の緊急事態宣言期間中は支部事務所も閉鎖し、この春、技術士一次試験、二次試験合格者祝賀会も中止をせざるを得ませんでした。大変遅くなりましたが新合格者の皆様、難関を突破されたことお祝い申し上げますと共に新しい仲間としてお迎え出来ることを大変うれしく思います。ぜひ、技術士会に入会され埼玉県支部での活動をお願いいたします。

6月以降は感染に十分注意を払い活動を継続していますが、With コロナの時代に合った活動方法(Web・ネットワークの活用等)を引続き積極的に取り組んで参ります。



(増古恒夫支部長)

昨年委員会委員の定員増の承認を頂きました。このことにより委員会活動が更に活発になると期待しています。会員の皆様の各委員会への参加をお待ちしております。各委員会活動は以降の委員会報告をご覧ください。

With コロナの中、支部活動を推進するには皆様のご理解・ご協力・ご支援が必要です。どうぞ宜しくお願いいたします。

☞ 総務企画委員会

埼玉県支部総務企画委員長 村山 肇

1. 2020年度上期の状況

1) 行事：新型コロナウイルスのため、日本国中のスケジュールがオリンピックをはじめ完全にくるってしまいました。埼玉県支部でも「1次・2次試験合格者祝賀会」が中止に追い込まれ、「年次大会」も当初予定の7月10日から約1.5か月延期して8月末にやっと「2020年度埼玉県支部年次大会・技術士試験合格者祝賀会」という形式で開催することができました。

2) Web会議：「三密」を避けるため、埼玉県支部幹部会ではZoomによる会合を5,7,9月と3回実施しました。その他各委員会においてもZoomによる会合が増え、Web会議が浸透しつつあります。

3) こうほう発刊の遅れ：上期行事の中止・延期により「こうほう16号」への原稿が集まらず、発刊が1か月遅れることになりました。

2. 2020年度下期の活動計画

1) Web会議・講演会の推進：コロナ騒動はあと2年は続くと予想され、会議や講演会の対応にはWeb会議は避けられません。そこで埼玉県支部として、Web会議(特に講演会開催)についての方式がどうかCPD委員会と共同で検討を行い、10月をめどに結論を出すべく作業を進めています。

2) 来年度予算：コロナ騒動により、埼玉県支部における活動は行事はもとより、対外活動にも大きな影響を与え、著しく活動が低下しています。この中で「来年度の予算をどうするか」が大きな課題となってきました。つまり、「従来のパターンにとらわれず、ゼロベースで見直す」という課題に取り組まざるを得ない状況にあり、年末までこの作業が続きます。

CPD 委員会

埼玉県支部 CPD 委員長 白岩 信裕

本委員会は、14名の委員で1) CPD 行事の企画・運営、2) 技術士倫理の研修、3) 教育機関や若手技術者向けの技術士制度普及活動を行っています。今年度前半(4月~6月)は、新型コロナウイルスの感染の影響で外出自粛、会場利用禁止の措置があり、行事が滞りました。7月後半より計画した行事を実現すべく努力しています。既に講演会3回、技術士制度説明会2回、体験研修1回を実施しました。

実施に当たっては、対面型の行事は感染防止対策を講じ実施しています。

今後は、オンライン講演会の開催を実施し、各委員会と協力しながら講演会、技術士制度や開業支援の説明会を計画に従い実施し、少しでも参加者の満足と資質向上に資する様にいたします。会と協力しながら講演会、技術士制度や開業支援の説明会を計画に従い実施し、少しでも参加者の満足と資質向上に資する様にいたします。

開催月日	場所	行事(テーマ)
11.7	川越ウェスタ(西部地域小委員会)	講演会「中小企業とSDGs」
11.19	浦和コミュニティセンター(CC)	講演「知識構成型ジグソー法」
11.29	WEB(東部地域小委員会)	WEB講演会「リアル社会とネット社会の将来」
12.12	熊谷市立CC(北部地域小委員会)	講演会「SAITEC 北部研究所概要と最近の研究成果」
12.18	浦和CC	講演「農業・食品分野での産学連携と技術士の役割」
1.9予定	新都心BP(ビジネス交流プラザ)	技術士業績・研究発表大会
1.23予定	さいたま市CC	「新規開業セミナー」
2予定	さいたま市CC	講演「検討中」
2.12予定	新都心ビジネスプラザ	彩の国産業活性化交流会、CPD 講演
3.20予定	さいたま市CC	「技術士資格取得制度説明会」

科学技術振興委員会

埼玉県支部科学技術振興委員長 黒澤 兵夫

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、緊急事態宣言が出され理科教室が7月まで開催できませんでした。8月の夏休み、さいたま市大宮北小学校のまつのこクラブ及びたけのこクラブにおいて開催しました理科教室「水中エレベーター/浮沈子」について報告をします。

・2020年8月5日及び6日、両日合わせて参加者45名。技術士(講師・助手)7名。初めにパワーポイントにより教材、実験手順、基本となる「アルキメデスの原理」「パスカルの原理」「ボイルの法則」を分かり易く説明し、ペットボトル・魚型タレピン・ナットを用いて「水中エレベーター/浮沈子」を実験しながら作成しました。実験のポイントは、タレピンの中の水の調整、ペットボトル中の水の調整を指導し、興味を持ちながら参加者がまず実験を成功させ、原理の基本を理解するように教えました。低学年には少し難しいところがありましたが、理論と実験を繰り返し分かるまで行いました。全般に実験への関心は高く、実験を通じ理科/科学に興味を抱き、将来、立派

な科学者、技術者になる期待が持てました。参加者及び主催者とも大変喜んでおりました。

・なお、本委員会の目的は、地域の団体/組織と連携を図り、科学技術の振興と社会貢献を行い、特に、小学生から大学生及び若手技術者の育成を行っています。2020年度から小学校においてプログラミング教育が義務化され、技術士が協力・支援すべきことを調査、検討(教材、ラズベリーパイの活用、スクラッチ プログラミングなど)していきます。また、委員は、独自の理科実験テーマを持ち、ブラッシュアップを図りながら顧客からの要求に対応すべく努めていきます。



(理科実験説明の様子)

地域産業支援委員会報告

埼玉県支部地域産業支援委員長 近藤 孝

地域産業支援委員会の重要なミッションは、「技術の力で地域の発展に貢献する」ことにあります。2020年度は『新たな活動の定着化に力を入れる』をスローガンに、活動を進めています。

新型コロナウイルスのために一部の活動が停滞を余儀なくされていますが、web を有効活用して企業様の

ご要望に応えるよう継続努力して参ります。

1. 社会貢献活動

昨年の水害多発に鑑み、防災支援グループを立ち上げましたが、DIG（図上演習）を主体とした地域支援活動を開始する準備を進めています。また、埼玉県庁から水害被災企業への補助金を審議する協議会の委員を推薦する要請があり、今年2月から積極的に協力継続しています。

2. 地域産業支援活動

技術問題にお困りの企業様のご要望にお応えできるよう体制整備を進めていますので。

是非、技術士をご活用ください。

1) 新たな活動として、理化学研究所のVCADシステム研究会への支援を開始し、県内中堅企業へ事業展開する際に技術士の技術力を活用して効率化するべく活動を始めました。8月から具体的なテーマでの支援を開始しました。

2) 商工会議所・商工会との人脈ができてきつあり、地域企業支援の基盤ができてきました。

3. 外部への技術士紹介活動

2020年度は各種展示会が中止やweb開催に変更される中で、彩の国ビジネスアリーナには出展し、技術士活動の紹介を実施する予定です。技術士の活動をまとめたパンフ「技術士はこんな支援活動ができます」を充実させ、関係機関に配布して技術士の活動PRに努めて参ります。是非ご活用下さい。

地域活性化委員会報告

埼玉県支部地域活性化委員長 穴戸 富雄

令和2年度(2020)の委員会活動(北部・西部・東部)は「新型コロナ禍」の影響で主な活動・行事の大幅変更(中止)を余儀なくされました。定例委員会はWeb会議に代り、CPD行事は本部からの自粛依頼で見学会が中止となりました。

以下各地区委員会の活動をご報告します。

(1) 北部地域小委員会の活動

1) 定例委員会 : 一部Webでの会合

2) CPD行事 :

①見学会: 中止(群馬県支部との共催)

②講演会: 12/12(土)実施 [熊谷市]

演題「白菜頭部隣結末ロボットの開発」

③展示会: 北部技術交流会(開催方式未定)

(2) 西部地域小委員会の活動

1) 定例委員会 : 一部Webでの会合

2) CPD行事 :

①見学会: 中止

②講演会: 11/07(土)実施 [川越市]

演題「中小企業はSDGsにどう取り組むか」

(3) 東部地域小委員会の活動

1) 定例委員会 : 全てWebでの会合

2) CPD行事 :

①見学会: 中止

②講演会: 11/29(日)実施(Web講演会)

演題「リアル社会とネット社会の将来」

講演者: 2名(技術士)

CPD参加証交付。アンケート回収。

講演の拠点: 春日部市(公共施設)

③展示会: 中止(越谷産業フェスタ2020)

本年度は「新型コロナ」に翻弄された年でした。然しながらWebを通じて他分野の方々との接触機会も多くなりました。これら新たな体験を今後のCPD活動に生かしていく事が重要です。

<重点項目>

1. 「コロナ」後の新しい秩序に順応(Web)

2. 地域活動委員の増強(北部、西部)

3. 他県技術士会との交流(各種行事の共催)

技術士試験合格者紹介

キヤノン・コンポーネンツ株式会社 宮崎 優一（機械部門）

これまで、現職では精密機器メーカーで生産に用いる装置・治工具の設計、前職では自動車部品関連のプレス金型設計に携わってきました。成果としては生産の効率化や現場作業の改善、設計の標準化があります。

現在はこれらの経験を基に、事業部規模の技術管理の仕事をしています。品質マネジメントシステム（QMS）やデザインレビュー周辺業務に関わることが多いです。

元々、技術士という資格は大学生の頃から知っており、1次試験も大学卒業からあまり時間を置かずに合格していました。しばらくはあまり自分のキャリアというものに向き合っていなかったのですが、大学卒の技術者が当たり前になってきたこの時代に「プロフェッショナルとは何か」という疑問の答えのひとつとして技術士2次試験の受験を30代半ばで決意しました。独学で試行錯誤の受験勉強でしたが、自分に足りないものの発見や、できるようになったものの実感など、貴重な経験を得ることができました。

余談ですが、筆記試験合格の直後、口頭試験時の服装が気に入り過ぎてしまい、スーツや正装について数ヶ月間猛勉強したことも、今となってはいい思い出です。

先日、初めて日本技術士会埼玉県支部の行事に参加させていただきました。部門を問わず、高い専門性を持った技術者の輪に入れたことが、まずは単純に嬉しかったです。貴重な学びの場を得ることができたというのが率直な実感です。社内では後輩・後進と呼ぶ者達も多くなってきましたし、プライベートでも数十人単位の子供たちと接する機会があります。そのような中において、カッコいい技術者像を見せていくことが、技術士となった私の使命だと感じています。少しでも早く、周囲に影響を与えられるような立派な技術士になれるよう精進していく所存です。お気軽にお声掛け、ご指導いただければ幸いです。



（宮崎優一氏）

技術士試験合格者紹介

株式会社大林組 エンジニアリング本部 長舟 利雄（電気電子部門）

令和元年度技術士二次試験（電気電子部門）に合格しました。現在は株式会社大林組のエンジニアリング本部情報エンジニアリング部にて情報設備に係る計画・設計および施工支援業務に携わっています。

従来、ゼネコンの設備設計では弱電と分類される職種については別途とする場合が多く、お客様の施設発注部署でも、弱電はそれぞれ専門業者に発注するケースが多数となっている。しかし、建物には必要不可欠になっている情報関連の設備を別途としていることは、ゼネコンとしては収益の機会を逸していることにもなり、ネットワーク設備、電話設備、セキュリティ設備、視聴覚設備（AV設備）を本体工事に取り込み全体の受注高を向上させることを使命としています。

私個人の経歴としては、入社時は建築職として入社しました。建築現場も経験しています。その後のキャリアとして、情報システム部門、エンジニアリング部門を経験しているうち、ネットワーク技術、セキュリティ技術、映像系技術についてOJTで学ぶことになりました。建築技術をベースにして

ネットワーク技術、セキュリティ技術、AV技術などにも精通することで情報エンジニアリング部が設立される時に現在の部署に異動となりました。

情報エンジニアリング部は創設されて約20年を経て当初はハード的に導入することに注力していましたが、最近では、サービスを提案しつつそれらに見合ったハードウェアを提案できるまでに成長してきました。

コロナ渦の中、オフィス、生産施設、医療施設、教育施設など働く場の在り方が見直されている中、そこにあるべき情報通信技術についても変化を求められていることを強く感じています。

情報通信分野は特に動きの速い分野です。技術動向を的確にとらえる努力をして、技術士として日々研鑽を重ねて社会に貢献しておければと考えています。



（長舟利雄氏）

2020年度年次大会・技術士試験合格者歓迎会報告

CPD委員長 白岩信裕

はじめに

2020年8月29日(土)、埼玉県支部2020年度年次大会及び2019年度技術士試験合格者歓迎会を、浦和コミュニティセンター(JR浦和駅前)で新型コロナウイルス感染防止対策を講じ開催いたしました。参加者は45名です。第1部では、支部活動結果と方針を示し、続いて技術士試験合格者を紹介しました。第2部では、CPD特別講演2講演を行い、講演1では埼玉県産業技術総合センター(SAITEC)センター長 福田保之氏のSAITECの産業支援の状況を、講演2では埼玉県危機管理防災センター災害対策課主幹 林大輔氏に昨年の台風被害への対応状況、同じく危機管理課危機対策幹 山口芳正氏に、新型コロナウイルス感染防止対応の状況に関しお話戴きました。

第1部 年次大会・歓迎会(13:30~14:45)

増古支部長から支部の前年度活動実績と今年度活動方針の説明がなされ、続いて委員会別に活動結果と計画について所掌委員長が報告しました。務企画委員会と会計は村山肇委員長、CPD委員会は白岩信裕委員長、科学技術振興委員会は黒澤兵夫委員長、地域産業支援委員会は近藤孝委員長、地域活性化委員会は穴戸富雄委員長からです。その後、参加された二次試験合格者2名の方を紹介しました。(合格者紹介欄で詳細を掲載)

第2部 CPD特別講演会(15:00~16:50)

講演1、「次世代産業の創造に向けたSAITECの取り組み」 福田保之氏

SAITECは川口市に本所があり熊谷に北部研究所がある。公設試験研究機関として、埼玉県内産業の活性化を技術研究面から支援している。主に中小企業の抱える問題

を「技術支援」「研究開発支援」「事業化支援」3つの支援で解決へ導くようにしている。「技術支援」は分析・測定等の依頼試験処理或いは機器の利用を促す支援である。「研究開発支援」は新技術創出研究、産業支援研究或いは受託や共同研



(福田保之氏)

究を支援することである。「事業化支援」は次世代型ものづくり製品開発での製品化や現場改善・製品化での支援を示し、研究室を貸し出すことも行っている。

今年度の重点支援施策は、①IoT・AI導入支援②3Dデータ活用支援③材料分野の支援能力向上④高付加価値食品の開発支援⑤デザイン力の強化・向上支援⑥次世代電池(マグネシウム蓄電池)の開発、である。

技術士会との連携には①現場改善や新製品開発等での指導②先端ものづくり技術への助言・指導③SAITEC未保有シーズへの対応指導、がある。講演2、「埼玉県危機管理防災センターの取り組み」その1「2019年台風19号災害について」 林大輔氏

防災センターの機能の紹介を交えながら、昨年10月の台風上陸による埼玉県内被災状況と防災センターでの災害対応の状況が時系列で話された。大雨特別警報発表後の被災に対しては、災害対策本部設置、災害救助法適用を行い被災者の救助、再建への支援を行っている。支援は物資面では19市町村に対し、人的面では3市に延べ362人行われ、33団体から協力を得ている。これら災害対応についてその後検証し、31の教訓と41の対策を取りまとめた。

その2「新型コロナウイルス感染について」

山口芳正氏

本年1月から感染防止活動を開始し、対策本部で諸策を講じ実施中である。現在は「彩の国「新しい生活様式」安心宣言」の県内企業や団体への普及、新たな病床確保に努め、「感染防止へのお願い」を広く要請している。

終わりに

いずれの講演も、技術士の社会的責務や・貢献を自覚させるものでありました。



(林大輔氏)



(山口芳正氏)

📧 寄稿「テレワークのいま、そしてこれから」

Office Morino/須郷 均 技術士 (情報工学)

この春、その知名度が一気に上昇したテレワーク。読者の皆様はこのことばかり何をイメージされますか。

Zoomによるリモート会議、社内サーバに私物のコンピュータを接続しての企画書作成、あるいはメールのやり取り、はやりのウェビナーでのセミナー聴講、さらに技術士であれば講師として運営側にまわることもあり得ましょう。加えて、電子稟議書の承認、設計図面の作成や積算、研究成果の発表などなど……、デジタル情報に変換可能なことなら全てその対象となり得ましょう。

さて4月に出された緊急事態宣言を機に、導入が加速・拡大したテレワークですが、5月末にそれが解除されると対応は大きく分かれました。

その後も、この取り組みを発展・継続しようとする企業がある一方で、やれやれ嵐はひとまず過ぎ去ったと（勘違いし）これを放棄あるいは解消した企業があるのも事実です。その証左として、テレワークに移行できない（あるいはさせない）理由をあげる企業が一定数存在します。曰く、

- ・適用業務に限られる（またはない）
- ・コミュニケーションが図れない
- ・管理（監視）しにくい（またはできない）
- ・部下の評価がしにくい（またはできない）
- ・勤怠管理を見直さなければならない

今までのやり方をそのまま踏襲しようとするれば「……ない」となるのは当然の帰結でしょう。

そもそも見張られていないと仕事ができない人はテレワークに不向きです。これが解決すべき課題というのでは先に進めません。私は、締切り（あるいはマイルストーン）の確認のみで十分と思うのですが、結局のところ将来展望のない無計画な所作が生み出した失敗体験がその根底にあるのだと思います。

ところでICT 関連業務を進めるにあたり、どんな場合にも気を配らなければならないのがセキュ

リティ対策です。今日の状況下では全ての企業に対し、この面の善管注意義務が必須条項として課されます。

冒頭でふれたように、応用の視点からは多様な姿を見せるテレワークですが、技術モデルとして、ベース基地と遠隔拠点とのつながりととらえれば、基本的には以下の二つの形態に集約できます。

一つはVPN、もう一つはRDTです。（別コラム参照）それぞれの持つ特長から、本格的なVPN、簡易なRDTと捉える向きがありました。しかしここへ来てVPNに対する信頼性に揺らぎが生じています。仮想トンネルの出入り口に設けるVPN装置の脆弱性およびそれを狙った攻撃が急増している現実です。従来のばらまき型ではない、ターゲットを定め潜行する強力なランサムウェア攻撃の胎動です。詳しくは以下のIPAからの注意喚起をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/2020-ransom.html>

今から5年前、定年を機に私は、リモートデスクトップによる顧客支援と、サテライトオフィスや在宅勤務を想定した働き方改革を目標に、テレワーク環境の整備を主眼とする技術士事務所を開業し、今日に至ります。

私たちは現在、混沌とした状況の下に置かれていますが、新しい秩序の到来を期待し備えて行きたいと思います。新しい葡萄酒を古い革袋に入れるような過ちを犯すことがないよう、この機会を一時的な流行の場としてではなく、技術者の良心に従った行動の場として、地道に誠実に歩んで行きたいと思っています。



(須郷 均氏)

寄稿「テレワークのいま、そしてこれから」の別コラム

PCを用いたテレワークの実現方法として大きく次の2つがある。

1. VPN (Virtual Private Network) 方式 2. RDT (Remote Desk Top) 方式

1. は企業(組織)の既存ネットワークに、インターネットを介して遠隔地のPCまたはLANを追加接続する方法、インターネット区間は仮想のトンネルにより他の通信と分離される。

遠隔地のPCにも企業内と同等のセキュリティレベルが求められる。企業のポリシーに従ってアクセス権が設定され、処理に必要なデータはトンネル内を行き来する。

2. は企業(組織)のネットワーク内にある既存PCに、インターネットを介して遠隔地の別のPCを接続する方法、いわばマジックハンドで自宅から会社のPCを操作する感覚。

インターネット区間を流れる信号は暗号化されるが、ここを行き来するのはPCの画面およびキーボード、マウスの操作信号のみである。

万一、遠隔地のPCがマルウェアに感染していても、その影響は企業側には及ばない。ただしキーロガー(キーボードの操作情報を盗み取る脅威)等は別。

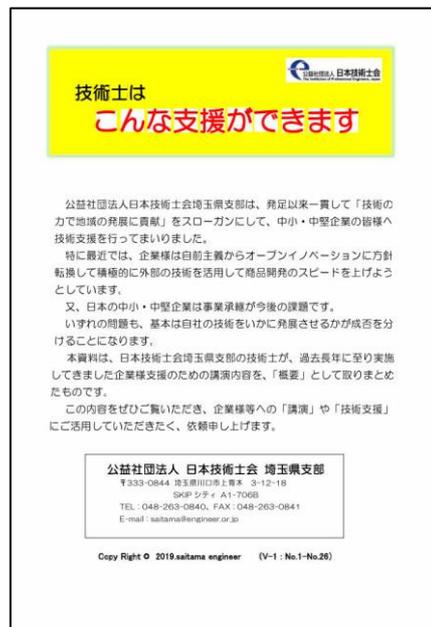
商工会連携活動用資料「技術士はこんな支援ができます」の紹介

地域産業支援委員会

埼玉県支部は、発足以来一貫して「技術の力で地域の発展に貢献」をスローガンに、中小・中堅企業の支援を行っています。

過去長年に渡り実施してきた企業様支援のための講演内容が多数ありますので、有意義に活用されるのが望ましいと考え、「技術士はこんな支援ができます」という資料に纏めました。

本資料は、過去、技術士が実施した講演とその概要を記載しています。会員皆様には機会を捉え、関係先(機関、企業等)に紹介いただけたらと思います。



(資料表紙)

分類	NO	講演題目	講演内容	講演者
AtoT 情報セキュリティ	10	IT・Web時代のセキュリティ	ITは、その発展がもたらすデジタルトランスフォーメーションの発展を促す一方で、IT化がもたらす新たなリスク、実態のIT/AIの代表的な技術的脆弱性を解説。	白鳥隆雄(NTTコミュニケーションズ)株式会社 技術士部門専任工務 専任
	11	マイナンバーをめぐり事業者の心構え(マイナンバー時代の情報セキュリティ)	マイナンバー制度の導入により、事業者は、個人情報を、情報セキュリティの観点からとらえ、当事者の権利を保護する必要がある。	高田洋 Office Morino 技術士部門専任工務 専任
情報-GAP 点と課題	14	マイナンバーをめぐり事業者の心構え(マイナンバー時代の情報セキュリティ)	マイナンバー制度の導入により、事業者は、個人情報を、情報セキュリティの観点からとらえ、当事者の権利を保護する必要がある。	高田洋 Office Morino 技術士部門専任工務 専任
	15	情報セキュリティと事業者の心構え(マイナンバー時代の情報セキュリティ)	マイナンバー制度の導入により、事業者は、個人情報を、情報セキュリティの観点からとらえ、当事者の権利を保護する必要がある。	高田洋 Office Morino 技術士部門専任工務 専任
事業継承	16	事業継承の準備と実践(1)	事業継承の準備と実践(1)	高田洋 Office Morino 技術士部門専任工務 専任
	17	事業継承の準備と実践(2)	事業継承の準備と実践(2)	高田洋 Office Morino 技術士部門専任工務 専任

(本文例)

埼玉県支部協賛団体の紹介

1. ベルセッジ・インコーポレイテッド
2. NPO 法人彩の国技術士センター
3. 有限会社 中村金属工業
4. 共和コンサルタント株式会社
5. 一般社団法人 技術士さいたま
6. 株式会社テクノクオリティー
7. 株式会社 日さく

編集後記

こうほう 16 号の発行が一月遅れてしまいました。新型コロナ騒動により、埼玉県支部における今年度上期の行事がごとごとく中止・延期となったため、掲載記事が少なくなったのが理由です。8 月末に何とか年次大会・技術士試験合格者歓迎会を開催し、記事に充てることができました。

また、今回は最新情報として須郷様より「テレワーク」に関する投稿をいただき掲載いたしました。少しマンネリを脱出できたと考えます。皆様からの投稿をお待ちしています。

発行所 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部

こうほう・彩の技術士第 16 号 発行年月日 2020 年 11 月 1 日発行
日本技術士会埼玉県支部 E-mail saitama@engineer.or.jp